



マレーシアの Sekolah Menengah Sains Sultan Mahmud の生徒と、将来の世界を考える！

普通科
探究科

12月7日(木)から始まった Sekolah Menengah Sains Sultan Mahmud (スルタンマブムード理科中等学校)との交流の、第2回目を12月21日(木)、第3回目を1月11日(木)に行いました。



掲示板であるPadletに書き込まれた解決策

第2回目以降は、SDGsの17の目標の達成が求められている2030年に向けて、私たちができることを考えていく活動に取り組みました。生徒はこのたびの交流で使用している掲示板Padletに、それぞれが選んだ目標を示し、自分たちができることを事前にまとめました。そして、2030年の自身の姿を思い浮かべながら、未来の自分がそれぞれ何に取り組んでいるか、英語で紹介しました。2番目の目標である「飢餓をゼロに」を選択した生徒は、食品ロスの問題に着目し、「普段から必要なものだけ購入するよう呼びかける活動に取り組む」と述べていました。また、第4の目標である「質の高い教育をみんなに」を選択した生徒は、住んでいる場所や経済の状況により質の高い教育にアクセスできないことを解決するための方法を提案し、「意欲のある子どもたちに批判的思考力や創造性を育むことができるよう活動する」と述べていました。本校生徒は、8つのグループに分かれて英語でディスカッションしましたが、それぞれのグループで出会ったマレーシアの高校生等と将来再会し、SDGsの17の目標の達成のために協働してくれることを期待します。



マレーシアの高校生等とオンラインでSDGsについてディスカッションする生徒

書道部の生徒が、第38回西日本学生書道展で山口県知事賞を受賞！

普通科
探究科

第38回西日本学生書道展に本校生徒が出品し、探究科3年次生が山口県知事賞、探究科2年次生が山口県議会議員賞、探究科1年次生が山口県教育長賞および普通科3年次生が平家賞を受賞しました。西日本学生書道会が主催する本発表会は、書道教育の振興を図るために開催されているもので、山口県をはじめ福岡県や沖縄県から119作品の出品がありました。作品は12月1日(金)から3日(日)まで下関市民館で展示され、多くの方々に披露することができました。出品した本校の生徒は書道部に所属しており、日ごろから努力してきました。書道部では、これまで第54回山口県高等学校総合文化祭で普通科の2年次生2人が優秀賞をいただくなど成果を上げてきました。これからも、よりよい作品創りに向け、努力することを期待します。



本校生徒の作品は、左から2番目(平家賞)、5番目(山口県教育長賞)、6番目(山口県知事賞)、7番目(山口県議会議員賞)である。

探究科3年次の「化学2班」が、第8回「はばたけ未来の吉岡彌生賞」で奨励賞を受賞!

探究科

2年次の発展探究の授業において課題研究に取り組んだ探究科3年次の表に示した研究班が、東京女子医科大学などが主催する第8回「はばたけ未来の吉岡彌生賞」に論文を出品し、化学2班が高校生の部で奨励賞(4位相当)をいただくことができました。本コンクールは、東京女子医科大学の前身である東京女医学校を明治33年に設立された吉岡彌生先生を記念して開催されています。女性の社会進出が積極的に行われていない当時、津田塾大学を設立された津田梅子先生とともに、吉岡先生は、女子高等教育を切り開かれました。

第8回「はばたけ未来の吉岡彌生賞」に出品した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ	結果
公民	下関市風力発電導入大作戦	
数学	1/f ゆらぎの短期における記憶力への効果	
物理1	ボウリングで100%スベアをとる方法	
物理2	磁歪式振動発電を用いた雨滴発電	
化学1	竹酢液によるアンモニアの消臭	
化学2	カイロを変える!!~資源循環につながるカイロを作る~	奨励賞
生物1	コオロギの捕食者に対する反応	
生物2	ワラジムシで土壌回復に役立つの?~ワラジムシと小松菜の成長の関係~	
保健体育	片方の手の握力を鍛えると、もう片方の手の握力も上がる?	
家庭	いでよ神龍!仙豆で世界の飢餓をなくしたまえ!	

3年次生の探究活動は、これですべて終了となります。みなさんが3年間にわたって身に付けてきた課題解決力は、これからみなさんが進もうとしている多くの大学のアドミッションポリシーに明記されています。これからは身に付けた力を発揮しながら、新たな学びに挑戦してください。



3年間にわたって課題研究に取り組んだ生徒

探究科の1年次生が、課題研究のテーマを考えました。

探究科

探究科の1年次生が、来年度の発展探究の授業で取り組む課題研究のテーマ設定に挑戦しました。1年5組では12月6日(水)に、1年6組では12月13日(水)に行った基礎探究の授業において、来年度所属する人文社会科学科と自然科学科により研究できる分野に違いがあることなどが説明されたのち、生徒一人ひとりが普段から興味をもっているものをピックアップしながら、課題解決に挑戦してみたいテーマを考えていきました。これから、同様の興味をもっている同級生と研究班を編成し、来年度の研究に備えます。このたび生み出したテーマを研究班ごとに絞り、研究が充実するよう努力しましょう。



テーマを考える探究科の1年次生

1年次生が、小論文の書き方を学びました。

普通科

探究科

12月13日(水)の総合的な探究の時間(本校では、「NCA」と呼んでいます。)に、第一学習社の長岡 裕子(ながおか ひろこ)先生による、小論文講演会を実施しました。1年次生全員を対象とした講演会では、はじめに小論文の書き方には、最初と最後に意見をはっきり述べる主題提示型と、最初に問題点を取り上げ、解決策を示していく課題解決型の2種類があり、主題提示型は志望理由書に、課題解決型は入試で出題される小論文に適していることを説明されました。そして、「コンビニエンスストアの24時間営業に賛成か反対か」というテーマで小論文を書く場合、様々な立場の人々の意見を考えながら、よい点と問題点を抜き出し、できる限り広い視野から考えていくことが大切であると述べられました。学校推薦型選抜や総合型選抜に限らず、国公立大学の二次試験等でも小論文が課されることがあります。こうした入試に向け、伝わる文章の書き方について、じっくり考えましょう。



小論文講演会で学ぶ1年次生

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。